

3. 地場産業と歴史を生かした地区の魅力づくり

(1) 万古焼を生かした地区の魅力づくり

① 万古焼産業の周知と活性化

【現状と課題】

- λ 本地区は、橋北地区と並ぶ万古焼の産地であり、相対的に製造の事業所が多く分布しています。万古焼は、花器や土鍋、煎茶器など多分野にわたる陶器を生産しているものの、外国製品の流通等に伴い経営環境が悪化しています。
- λ 陶栄町にある万古神社が地区界の変更により橋北地区となったものの、窯跡の碑などもあることから、これらの活用や橋北地区との連携が求められます。
- λ 地区内には三重県工業研究所窯業研究室があり、万古焼の製造事業者が焼き物の調査や試験などを行うために利用したり、人材育成のプログラムを提供したりしています。しかし一方で、地区との交流はあまりないのが現状です。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 万古焼産業に関心を示すとともに、事業継続を応援します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 地区市民の関心・愛着を高めるとともに、地区外の市民に対して万古焼のPRを行うため、見学や体験の機会を提供できるよう、事業者等との協議・検討を行います。 ○ 関連イベントや施設・史跡等の学習機会の提供を通して、万古焼にまつわるエリアとして周辺地区と連携して一体的な魅力づくりを進めます。
行政・関係機関に働きかけること	○ 万古焼関連の事業所などを結ぶ見学箇所の一つとして組み入れるため、窯業研究室にも協力を働きかけます。 ○ 新たな地場産業の活性化方策の検討を働きかけます。



唯福寺境内にある海蔵庵窯跡の碑



三重県工業研究所窯業研究室

② 万古焼を介した地域のつながりづくり

【現状と課題】

λ 万古焼については、春と秋に万古焼にまつわるイベントが開催され、子ども向けの体験コーナーなども設けられています。また、海蔵小学校には陶芸用の窯が設置されています。これらの機会や施設を活用し、万古焼を通して子どもが地域に愛着や関心を持つ機会を提供する一方、本地区区ならではの世代間交流の場となるような取り組みを進めることが期待されます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 地場産業の振興のために、地区で製造された万古焼製品を積極的に利用します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ フラワーポットやプランターなどを万古焼で作製し、‘まちかど花壇’として地区の各所に設置し、維持管理を進めます。 ○ 幼稚園や保育園、学校などで行っている万古焼の製作体験を継続し、地区に対する愛着や関心を高めます。



海蔵小学校の陶芸室のガス窯



陶芸に取り組む海蔵小学校の児童

(2) 神社・仏閣や歴史資源の保存・活用

①地区の歴史資料の収集・整理

【現状と課題】

- λ 本地区には、多くの神社・仏閣があり、それぞれ由緒があります。今後、地区内の神社・仏閣の由緒や宝物・本尊などについて、海蔵小誌など既に整理されている資料を活用し、情報を発信するとともに地区市民全体が学べる機会を提供することが望まれます。
- λ 旧東阿倉川村は伊勢太神楽の発祥地の一つとして知られており、昭和 20 年代半ばまで存続していました。
- λ 旧西阿倉川村の御厨飽良河神社には、江戸時代末期（安政二年）の獅子頭が残されているうえ、現在でも西阿倉川獅子舞保存会が獅子舞を保存・継承しています。
- λ 昭和 3 年、旧海蔵村（現在の松ヶ丘）に開局した KAIZOU 受信所は、愛知県依佐美村（現在の刈谷市）にあった YOSAMI 送信所と対になって我が国初の対欧通信の基地として大きな役割を担いました。現在、その名残はありませんが、関係資料を収集・整理し、郷土史の一つとして後世に伝えることが望まれます。
- λ 本地区は、東海道が通っていたことでも知られ、三ツ谷南区には一里塚跡が整備されています。また、かつての東海道であった海蔵橋の名残などについて、案内板を充実させるとともに、地区市民への周知が求められます。
- λ 地区市民センターにあるかいぞう文庫は、多くの地区市民の手により受け継がれ、豊富な蔵書を有していますが、今後もこれらの継続と郷土史コーナーの設置などを行い、地域文化の資料館としての役割を担うことが望まれます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ 地区の歴史に興味を持ち、学習会などに積極的に参加します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 地区で歴史資料の収集・整理に取り組まれている「地域の語り部」のような人材を応援し、地域に生かす活動をサポートします。 ○ 転入者や若い世代に対して、地区の歴史や文化を紹介するための情報発信をさまざまな媒体で行うとともに、学習会などの開催を検討します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 地区における歴史資料の収集・整理に関する取り組みへの支援を働きかけます。



御厨飽良河神社の安政二年の獅子頭（左）



西阿倉川の獅子舞（市文化会館にて）



現在の松が丘地内にあった KAIZOU 受信所

②地区の祭りの保存・継承

【現状と課題】

λ 本地区の神社では、それほど大きな規模ではないものの、毎年祭りが催されています。今後、これらの祭りについて、それぞれの情報を共有し、魅力向上につなげることが期待されます。

【今後の方向性】

地区市民一人ひとりが取り組むこと	○ それぞれで受け継がれている祭りに興味を持ち、保存活動などに積極的に参加します。
地域組織・各種団体が取り組むこと	○ それぞれで継承されている祭りについて、情報を収集・整理するとともに、必要に応じて保存活動を支援します。

③東海道の面影の保存

【現状と課題】

入本地区は、東海道が通っていたことでも知られ、三ツ谷南区には一里塚跡の碑と説明版が設置されています。また、かつての東海道であった海蔵橋の名残などについて、案内板を充実させるとともに、地区市民への周知が求められます。

【今後の方向性】

地域組織・各種団体が取り組むこと	○ 東海道の名残が残る部分を大切に保存し、地区内外に情報発信を行うとともに学習会などの機会を提供します。
行政・関係機関に働きかけること	○ 東海道区間のカラー舗装や旧海蔵橋跡などへの説明看板の設置を働きかけます。



三ツ谷南区の一里塚跡の碑



海蔵地区を通る旧東海道（三ツ谷町地内）

